



ユニ総合計画の グリーンレポート

1級建築士 不動産コンサルタント 秋山英樹

1月号

発行日2014年1月

「社会のしくみをマージャンに例えると・・・」

あけましておめでとうございます。

今年は私の個人的な意見なども交えて発信していきたいと思っておりますので、御笑読いただければ幸いです

猪瀬知事の辞任である小泉元総理がマスコミに出てきて思い出しました。小泉さんが構造改革というキャッチフレーズでグローバル化を進めた結果、知らず知らずのうちに、所得格差や企業格差が広がり大か小の二極分化の世相になり、現在進行形になっています。善か悪か、○か×か、白か黒か・・・これまでどっちつかずグレー色で染まっていた大多数の日本国民がグローバル化という名のもとに、大きく色分けされてきているように感じます。そのグローバル化を大きく進めていったのが小泉さんだったことを思い出しました。

グローバル化は全世界がオープンで国境のない社会を創ろうとあたかもばら色の世界が待っているようなフレーズに聞こえますが、その裏にはアメリカをメインにした西欧人の社会システムに変えようとも聞こえます。

金融経済がグローバル化している昨今、不動産を証券化して金融経済に組み込み、多くの企業を取り込んできたかと思えば、今年から始まったNISA（ニーサ）では、一般国民もその中に取り込もうとしています。ニーサのキャッチフレーズでは「100万円までの投資ならいくら儲けても税金がタダ！」中には株式取引手数料もタダ。確かにそのものズバリを言っているのですが、「NISAを使いこなすオススメコース：株式値上がりコース、高配当コース・・・」ここまで書かれていると、儲かることが前提に聞こえてしまいます。そもそも株式投資や投資信託は儲かる時もあれば損もします。株式投資はハイリスク・ハイリターンは当たり前で、この数年で株で儲けた人はほんのわずかで、ほとんどの人は当初の元本を割っているのが現実でしょう。

株式投資でプロもどきの人でさえそんなに儲かっていないこの時代に、株に素人の国民をここまで金融の世界に巻き込んでよいのか疑問です。

ニーサは、証券会社を窓口にした金融の世界に日本国民を囲い込む第一歩です。しかし、しっかりした知識をもったの参画は悪くはありませんが、金融に関しては多くの日本は、まだまだ素人です。

これらのことを、マージャンで例えると良く分かります。そもそも、日本人は家族マージャンをやっていたら楽しくそれなりに幸せなのです。

江戸時代、西洋人がやってきて驚いたのです。

日本人は、食は貧しくとも幸せそうで、器用に何でもこなし、親切で、好奇心も豊かで、・・・その他は忘れてしまいましたが、昨年、高知にセミナーに行ったついでに竜馬記念館に立ち寄ったときに、当時の西洋人が見た日本人観（田舎が中心と思われる）が展示がされていて、興味深く拝観してきました。昔は、貧しくとも幸せなくらいで満足していた日本人でしたが、現代では生活が豊かでないとも幸せではないという意識が老若男女に蔓延しています。

話しを戻しますと、家族マージャンで楽しく過ごしていたところに、雀師（プロのマージャン者）が入ったのです。普段ならプロはお断りなのに、強制的に入れてくれときたのです。断ったらマフィアをつれてきて家族に危害を与えられたら大変だということで門戸をひらきました。

そこでは金融工学など大学で習ったこともないことが行われています。マージャンで言えば、今まで知らなかった役（勝つための牌の組み合わせ）が出てきたため、それを習得するのに、いくら器用な日本人でも時間がかかります。そうこうしているうちに雀師の一人勝ちです。

グローバル化には規制緩和も入ります。これまでお上が司っていたルールをなくしていくのです

これもマージャンで例えると「何でもありマージャン」です。一般的に何でもありだと、「ナキピン有り」（前の人の捨てた牌を拾って456など3つ続きの、山を4つ作れば上がり）で初心者でも、簡単にゲームに参加できることになります。初心者でも上げられるので一見ゲームが盛り、運がよければ何回は低い点数ですが勝って場も盛り上がります。しかし、終盤になれば色々な役を知らない初心者は結局負けるのが現実です。

初心者と上級者は分けてゲームをしたほうがお互いに楽しいですが、強くなるには上級者で行うのが早道です。マージャンに例えると社会の仕組みが分かりやすいと思ったのが、初夢ではないですが初感想です。